

夫の正体

声（女性）

私の主人は非常に無口です。仕事一筋の厳格な今時珍しいぐらいの頑固一徹な日本男児といった人です。そんな頑なな所に引かれ一緒になったのが、もう三十年も前のことです。しかしその三十年の間、私は主人が喋ったのを聞いたことはありません。本当に無口な人なんです。

楽しい思い出もありました。新婚時代二人で瀬戸内海の小さな島に二泊三日の旅行に行ったのがそれです。普段仕事のことばかり考えてる主人が、瀬戸内海の穏やかな海を見て、その時初めて少し笑顔を見せたのを鮮やかに覚えています。

それにしても無口な主人です。返事も首を縦に振るか横に振るかの違いだけですし、黙々と食事をとり、風呂に入り、仕事を続けるのです。でも私はわかっています、主人に愛されているということ。

そんな無口な主人に、私はある一つの願い事を話しました。先日のことです。それは私たちだけで結婚式を挙げよう、ということ。こんな年で結婚式だなんて、と言う人もいらっしやるでしょう。しかし私たちは三十年前に入籍した時貧乏で式なんか挙げられる状態じゃなかったのです。日本古来の奥ゆかしい式をいつしか挙げたい、文金高島田を身につけて・・この三十年来の私の願いを主人は快く聞き入れてくれました。そう、無言の笑顔で。嬉しかった・・私はこの無ウチな主人と一緒になれて良かった、そう心から思いました。そしてその式の日の朝のこと。私は初めて主人の話すのを聞いたのです。

女性の声（袖）

あなた。

主人

Pardon?.

声（女性）

驚きです。主人は外人だったのです。

主人

（両手を外人っぽく上げる）

暗転。

やっかいな駅

駅の雑踏。

郊外だが混雑する駅の駅長室。袖前が出入り口。

長テーブルが上手と下手に一つずつ。

上手のテーブルには卓上マイク、下手のテーブルにはインカム（センターとの連絡用）が置いてある。

中央には椅子、モップが立てかけてある。

舞台奥にサイドテーブル、鞆と紙袋が置いてある。

駅員が携帯電話で通話しながら入ってくる（ターンしたり格好つけたりしている）。

駅員

（通話相手は愛人、ダンディな声で） 関係ないよ。関係ないって。ふっふっふっふ。

（格好良く座って） 全く関係ないね。人がどう言うかと。俺は信じた道を行くまでさ。人生という名の。

（立ち上がる、舞台奥の紙袋のところへ） 会えるの楽しみにしてるよ。なぜ楽しみにしてるのか？ふっふっふ、当てるごらん。（答えるのを聞いて） ファンファンファンファン（不正解のSEのつもり）。

正解は「俺が君に会いたいと君が俺にいうのを聞きたくそうにしてる俺を君が俺に君からオレオレ詐欺」ふっふっふ。

早めに仕事終わりにして行くよ。大丈夫大丈夫。忙しくないって、こんな片田舎の駅。若い奴に任せるからさ。若い奴にやらせて・うん。もうすぐ交代してもらおうから。大丈夫だって。（適当に歌う）♪ 大丈夫大丈夫・・・ そうだね、誰の歌だろうね。え？俺にプレゼント？あ、明日が誕生日って覚えてくれてたんだ、待って待って、当てるよ。（考え） わかった。羽布団。高級羽布団。

センターから呼び出しのブザー。

不正解か。

（気づいて下手テーブルを振り返る） ま、会ったと

きの楽しみに取っておくよ。

ブザー（駅員がスイッチを押すまで鳴り続ける）。

（ブザーの方向⇨下手テーブルのほうを見て）じゃ
・うん・うん・ええ？

ああ、そのこと？心配するなって。別れるって。
心配性だなあ。心配要らないよ。寝室もずっと別さ。
ふふっ。

（立ち上がる）自信持って言える。妻とは家庭内別
居さ！愛してるよナツミ。

そろそろ仕事に戻るよ。さっきから連絡が来てるみ
たいでブザーが鳴りっぱなしなんだ。

大した連絡じゃないよきつと、どうせ電車の到着が
一、二分遅れるとかそんなことだって。

じゃあ、うん・（声を潜め）おやすみ。
うん。まだ昼の二時か。

じゃあ切るよ。また。

電話を切って下手テーブル前へ。

インカムを付け手元のスイッチを押し通話状態に（ブザー止まる）。

（低姿勢）はいっ。はいっ。はいっ！

どうもすみませんでした！そうですね、ホントすみ
ませんでした。・ええ、なんでしよつ？遅れる？
一分・も？（わざとらしく）えー、それは大変だ。

早速駅でお待ちのお客様にお知らせいたします！
すみませんでした！

（スイッチを切ってインカムを外す）なんで局長が
直接連絡してくるんだよ。

上手テーブル（構内放送のマイク）へ。手元のスイッチを押して
放送状態に。

（駅員特有の口調）お客様にお知らせいたします。
ただいま東京行き、のぼり電車におよそ一分の遅れ

が出ております。お客にはお急ぎのところ、誠に申し訳ありません。

(スイッチを切る。伸び、愛人との会話を思い出し)
信じた道を行くまでさ・・

モップを女性に見立て踊りながら有頂天。

舞台奥のサイドテーブルへ。鞆を開けて弁当を探す。包みを取り出し「なんだろう？」という表情。包みを手に弁当を探すが無い。ノック(「入れよ」の台詞まで鳴り続ける)。

袖前へ。包みは中央の椅子に置く。
外に新米駅員が来ているようだ。

(高圧的) 入れよ。え？傘？傘の忘れ物はそこにまとめてあるよ。見たらわかるだろ。

篠崎お前、目開いてるのか？寝てんだか起きてんだか。・・いいよ戻って。あ、お前メシ食ったか？

(答えず行ってしまったようだ)

包みを手にしたまま携帯電話を(妻に)かける。

なんだ留守かよ。

(留守電に、気弱そう) あー、私だけど。

あの、今朝ちよっと急いでたみたいで、出るとき、弁当と勘違いして、変な・・なんか包みを持って来ちゃったみたいで。悪いけど今から弁当届けてくれるかな。よろしく・・お願いします。(切りかけるが) あの、昨日は食器を洗うのをサボってすみませんでした。今晩は必ず私が洗います。失礼致します。

(切る、溜息)

立って所在無げにうろつく。携帯が鳴る。

(妻だと思って携帯に出る) あははは、弁当忘れるなんてなー、悪いけど今から(愛人だとわかり格好つけて) ふっふっふ、なんでも無いよ、違うよ。ナツミの声はすぐわかるよ。ちよっとね、ちよっと

電話がかかってくることになってさ、誰からって、そういうことはいいんだ。

ノック。

ごめん、人が来たんで。え？いや駅員駅員、若いの。すぐ掛け直す(袖へ移動)すぐ掛け直すから(切る)

袖前に。さっきの新米駅員が来ているようだ。

入れ。

折り畳み傘も同じところに置いときやいいから！

いちいち俺に聞くな！そして篠崎、いいか。

目を開ける。細すぎる。仏像に喋ってるみたい気分になる。

と中央に戻りながら携帯をかける。

(格好つけて) もしもしナツミ？俺俺。うん。

すぐ下手テーブルのブザーが鳴る。

俺さー掛け直そうと思うんだ。(切る)

下手テーブルへ急ぐ。インカムを付けスイッチを押す。

(低姿勢) はい。そりゃ早いですよー局長。

なんだって駅を任される身ですから。うふふふ・

まあそれも局長のおかげなんですけど。

え？はい承知しました。迅速に的確に放送のほうへ

インカムを外しながら軽やかに上手テーブルへ、スイッチを押す。

(放送口調) お客様にお知らせ致します。ただ今、東京行き、のぼり電車におよそ3分の遅れが出ております。お急ぎのところ申し訳ありません。(スイッチ

子を切る)あゝ腹減った。：もう一回掛けてみるか。

立ったまま自宅に携帯電話をかける。

(舌打ち) あー、まだ帰ってないのか。

(留守電に) もしもし私です。弁当届けて下さい。昨夜のこと起こっているのなら謝る。すみません。：

(気づいて) もしかしてそこにいるのか？文子？

文子？居留守使ってるのか？あ・居留守をお使いになっていらっしやるのでしょうか？・そんな、皿洗いサボったぐらいで・・とにかく弁当をお願いいたします。

(切る) ほんとあいつ、怒るとよくわかんない行動とるからな。

(ナツミに電話をかける) もしもし。

そうだな。すぐ掛け直すって行ったなあ俺。うん、ごめんごめん。え？話中だった？そっ？えーと・誰と話してたかっていうのは・だから聞けて、聞けよ、だから誰と話してたかっていうのはな

下手テーブルのブザーが鳴る。

あとで。(切る) なんだようるさいな。

下手テーブルへ、インカムを付けスイッチを押す。

はい・・(驚き) なんですかそれ！そんな・・

原因は・・わかりました、とりあえず放送します。

(インカムを外す)

上手テーブルへ、スイッチを押す。

(放送口調) お客様にお知らせいたします。ただ今東京行き、のぼり電車におよそ26分の遅れが出ております。お急ぎのところ申し訳ありません。

ノック。

(スイッチを切って) 入れ。

だから届けられた物はなんでも同じ要領！
財布も同じ！財布は財布でまとめとけ！それと篠崎。
気持ち悪いからそんなに目を開くな。加減というも
のを知れ。

新米駅員を半身で叱りながら上手テーブルへ、スイッチを押す。

ナツミ、さっきは急に電話切ってごめん。

なんか局長がうるさくブザー鳴らすんだよ、ナツミ
なんで黙ってるの？(気づいて) お急ぎのところ申
し訳ありませんでした。

(ワナワナしながらナツミに電話) あっ、ごめん、
さっきは・・・そうだよな、冷たいよなー、「あとで」
なんて切り方・・・ごめん。え？いやいや・・・え？
いやいや、え？・・・迎えに、来る？

(焦る) ここに？あう・・・いや、別にいいけどさ、
あの、今から？別にいいけど、その、今日は今から
弁当を届けにカミさん、いや、そう弁当的なものを
その・・・カミさんは来ないよ家庭内別居なんだし

下手テーブルのブザーが鳴る。下手へ移動しながら

(携帯に) ちょっと待ってね。

(インカムを付けスイッチを押す) はい局長、承知
しました。

(インカムを外し携帯に) だから弁当を届けに・・・
局長が来るんだよ。弁当を届けに来るの、局長が。

と上手テーブルに移動しながら

(携帯に) そう、手作りだよ。

上手テーブルのマイクに話そうとスイッチを押す。

ノックの音。

(ノックのほうを見るがマイクに高圧的に) 電車は
みんないつか来る。(スイッチを切って振り返り)
入れよ!

袖前へ行きながら

わかってるから! いちいちノックしなくていいよ!
そうだよ、ノックしなくていいい・え? だから!
痴漢は痴漢でまとめとけて! (と中央に戻りなが
ら携帯に) お待たせ・切ってる! (考え) え?
ここに来るのか? ナツミそうだったよな。えーっ。
それは・・(ナツミに電話) 「移動中で出られない」
ってもう出たのか(切る) こっちへ向かってるのか、
鉢合わせになっちゃうのか・・
もしもし! 私です! やっぱり弁当届けに来なくてい
いです! すみません! おさわがせしました! (切る)
とりあえずこれで鉢合わせは避けられるな。

座る、大きく安堵の息。

(ナツミに電話) ふっふっふ、来ていいよ。
大歓迎さ。ナツミが来るころには仕事も終わって
と思うから一緒に駅を出よう。じゃあ待ってるよ。
気をつけて来てね。(切る) 「先に帰っちゃイヤよ」
だって。ククク。(楽しみに想像) 何言ってるんだよ、
先に帰るわけないだろ。
(踊りながら) たとえ僕というエレベーターが定員
オーバーでも、君をB1に置いては行かないさ、
さあ、僕の「閉じる」ボタンを押して「らん、「上」に
参りまゝす」キンコン、ほーら地上30階

いつのまにか戸を開けこちらを見ていた新米駅員と目が合う。

(新米駅員に) ノックぐらいしろ!

いいよ、届け物は全部お前の物にしる！
 ああ、もらっとけ！（戸を閉める）

中央に戻りながら

面白そうに見やがって・・

気をつけないと。こんなところをカミさんに見られた日にやもう・・間違いなく血を見るな・・

（妻のことを思い出す）あいつ、留守電にしたままどこ行ってるんだろ。（考える）ま、いいけど。なんかそういうところあるんだよな。文子のやつ。

この前も帰って来たと思っただらすぐ出て行って・・

（気づく）もしかして、え・・

最初の留守電聞いて、家を出てるのか？

それで留守電になってるの？！

ちよっと・・今こちらへ向かってるってことか？え？

（携帯を見ながら考える）あいつ携帯持ってないからな・・

携帯（ナツミから）と下手ブザーとノックとが同時に。

（新米駅員に）うるさい！

（局長に）今誰もいません！

（携帯に、新米駅員相手のように）なんだよナツミ！あ、違う、（局長相手のように低姿勢）はいっ申し訳ございませんナツミ様・・（格好つけて）タクシーに乗ったんだあ。じゃあカミさんより先に着く・・なんでもないよ、ちよっと人格が破壊されそうになっただけさ、ふっふっ、待ってるよー。

下手テーブルのブザーがまた鳴る。

じゃあね（携帯を切る）。

格好つけて笑いながら下手テーブルへ。インカムを付けスイッチを押す。

(格好つけたまま) どうしたんだい局長?
 (我に返り) いえ、なんでもありません、バスで振替輸送ですか。3番出口の乗り場に臨時バスが入ってくる・・と。はい。3番ですね、承知しました。
 (インカムを外しながら) 3番出口に臨時バス

携帯鳴る。

(携帯画面を見て) 公衆電話からかっ!
 (出る) もしもし文子! 今どこから電話をかけたそんなところまで来てるのか!
 到着するじゃないか!
 なんでタクシーに乗ってまで・・電車が遅れてるとかそんなこと関係ないだろ!
 (切れる) 切れた・・
 来る・・来るぞ・・

呆然と上手テーブルへ。

(マイクに放送口調) お客様にお知らせいたします。文子が参ります。
 (我に返り) そ、そうだ!(ナツミに電話をかける) ナツミ、いいか。よく聞け。
 隣駅の、大山駅の、前の、ドトールで待っていてくれ。やっぱり職場には来ないほうがいい気がして、こっちから行くからな、必ず、じゃあね、ドトールから動くんじゃないぞ!
 タクシー? バカ! タクシーは、タクシーにだけは乗るんじゃないぞ!
 (切って整理) ナツミは大山駅のドトール! 文子は直接ここに来る。これでぶつからない!

中央の椅子に座り込む。包みを手に取り

(包みを手に) 大体なんだよこの包みは!

(開ける、中からバースデーカード、開くと♪ハッ
ピーバースデーの曲)

ノック。

文子か。

立って袖前へ。立ち尽くす。

(文子に) プレゼントありがとう。

(ナツミに格好つけて) タクシーでさっきの電話受
けてたんだ。

(新米駅員に) 篠崎・・

カミさんと愛人はまじめぢやならない。

暗転。

ヒグラシ日記（アテブリ）

明るく。蝉SE。

貧しげな小学生が机に座り、夏休みの日記を書いている。

小学生（声）

七月二十二日。晴れ。

夏休みが始まって二日目です。

朝早く、お母さんが隣の家庭菜園からトマトをもらいました。

隣の家庭菜園というのは隣の家庭の家庭菜園です。

だからお母さんは物凄く朝早く、午前三時頃に忍び込んで、もいで来ました。

おいしかった。

その、お隣のタダシ君は家族で海に行くと言っています。

いいなあ、僕もどこかへお出掛けしたいなあ。

お父さんがいうには「この季節の海は危険だ、警察が多いから」だそうです。

七月二十三日。曇り。

今日はお父さんがプレゼントを買って来ました。

お父さんがプレゼントを買って来てくれる時は、いつも目出し帽を持って行きます。

プレゼントは腕時計でした。わーい。

お父さんは手にケガをしてしまいました。

買う時にガラスを割ったからだそうです。

お母さんへのプレゼントには指環を十数点。

お母さんは喜んで「ステキ、屋根裏に隠してもいい？」と言いました。

お父さんが言うには「こういう貴金属は価値の変動が小さく、いつでも良い値で売られる」そうです。良い値で売られるものがもらえて嬉しかったです。

七月二十四日。晴れ。

お爺ちゃん家に行きました。

お爺ちゃんは自然が一杯の、静かな田舎に独りで住

んでいます。

今回のお爺ちゃんは吉田菊造さんと言います。

「預貯金」というものをたくさん持っているそうです。

お母さんはおめかしをしながら、巧妙な文章の保険金のパンフを用意しました。うまく行けばいいなあ。

八月三日。晴れ。

今日はお婆ちゃんにお電話をしました。

今回のお婆ちゃんは藤沢タネさん、離れて暮らす孫のことを心配しています。

まず、僕が電話に出て「お婆ちゃん？僕僕」と言います。

その後、お母さんと一緒に練習した、振込先の口座番号を言いました。

間違えずに言ったのでお父さんに褒められました。

八月八日。雨。

今日はお父さん、お母さんと僕で、ごはんを食べに行きました。

お父さんはトンカツ、お母さんは塩鯖、僕はハンバーグを食べました。

食べ終わるとお父さんは僕に「走れ」と言いました。角を曲がった所で別の服に着替えました。

おいしかったです。

八月十日。曇り。

今日もお父さん、お母さんと僕でごはんを食べに行きましたが、店に入った途端お父さんが僕に「走れ」と言いました。

刑事さんがいたからだそうです。

走りながら別の服に着替えました。

八月十二日。晴れ。

今日は朝起きて「おはよう」と言つや否や「走れ」

と言われました。
お父さんが言うには「追っ手がせまっている」
です。

八月十八日。曇りのち雨。
お父さんとお母さんが深刻な顔で話し合っ
て、旅行先が決まりました。
フィリピンだそうです。

先生は行ったことありますか？
あ、それから先生、旅行のことを別の言い
方で「高飛び」と言うそうです。
思い出に残る高飛びになればいいなあ。

八月二十日。雨。
今日は新しいお友達が出来ました。
ヨシオ君といます。

昨日の夜、塾の帰りにお父さんが車に乗
せて連れて来ました。
お父さんがヨシオ君ちに何度か電話して
います。
電話が長くならないよう気を付けていま
す。
ヨシオ君も電話に出て「ママッ」と叫び
ました。
お母さんはなんだか凄く期待をしていま
す。

八月二十一日。曇りのち晴れ。
ヨシオ君が来てから三日目です。
ヨシオ君はなぜか外へ出られないので
すが、僕は外で遊んでいます。
お母さんが「普段と違う生活をしなさい」
と言うからです。
なかなか受け渡しがうまく行かない
そうです。
お母さんの期待が焦りへと変わって来
ています。

八月二十二日。晴れ。
お父さんが言うには「正念場」だ
そうです。

八月二十八日。晴れ。

ヨシオ君とお父さんが出て行って五日が経ちました。お母さんが少し顔を変えました。イメチェンだそうです。

八月三十一日。晴れ。

いよいよ明日は高飛びです。

久しぶりに外に出たお母さんはサングラスに帽子、夏なのに黒づくめです。

お母さんが携帯電話で、お父さんとフィリピンで落ち合う場所を決めました。

お母さんは「良かった良かった」喜んでいますが、成功したようです。

ということですが、二学期はしばらくお休みしてしまいましたが、宿題は全部やったので、お隣のタダシ君に届けてもらおうと思います。

暗転。

(暗い中で無邪気に) 十月二十一日。晴れ。

お父さんとお母さんが捕まったのは、岡村先生がこの絵日記を読んで警察に通報したからだそうです。

暗転。

徘徊電話

男、登場。携帯電話を掛ける。

男

もしもし。プラスター製菓の亀崎です。・お世話になつております。

ええ・言われた通り線路の手前を左に入ったんですが。

(短い間) いえ大丈夫です。道は間違えていません。少し風景が寂れた感じになってきているようですが・富士急ハイランド。ええわかると思います、遊園地に出るわけですね。・はい。ええ時間には間に合うと思います。すみません、失礼します。(切る)

退場。再登場。止まって見回し携帯電話を掛ける。

もしもし亀崎です。すみません何度も。いやーそれが・今ですか？今は(見上げ)富士急ハイランドじゃなくてですね(間)古ぼけた寺の前です。寺です。傾いた襖の間から、青白い坊さんが覗んでいます。

(短い間) 道は間違えてないと思います。そうですか。ええ。とにかくスクランブル交差点に出るはずだと。交通量が多いから気をつける？わかりました。ええ、時間には間に合うと思います。

退場。再登場。止まって見回し携帯電話を掛ける。

ええ、亀崎です。今は・いえ、スクランブル交差点じゃなくてですね(間)けもの道です、ね。人っ子一人いません。(短い間)道は間違えてないと思うんですが・今のですか？今のは何かの遠吠えです。・とにかく繁華街に出るんですね。ネオンが眩しい？わかりました。ええ、時間ギリギリになるかもしれません。はい。失礼します。(切る)

退場。再登場。止まって見回し携帯電話を掛ける。

もしもし。私。・いえ・繁華街じゃなくてですね
 (間) 荒野です。荒野に立ち尽くしています。ネオン？
 見えません。ここから見えるのは・(見渡し) 地平
 線です。(短い間) ええ、近くまで来てると思うん
 ですが。わかりました。夕方ぐらいまでには着くと
 え？そんなはずは・(腕時計を見て) 昼の三時です。
 そちらは？・本当ですか？・とにかく駅前広場
 に出るんですね？わかりました。・あー、間に合い
 そうも無いですね。先に始めて下さい。(切る)

退場。再登場。止まって見回し携帯電話を掛ける。

もしもし。今、駅前広場じゃなくてですね(間) 奉
 行所の前です。

町奉行の奉行所の前に来てしまいました。

飛脚が休んでいます。お侍もいます。みんな私の服装
 を珍しげに見ています。

(周囲の人に) これは携帯電話という
 物です。でんわ。エレキテル？近いと言えば近い
 かもしれませんね。

(電話に) もしもし・ええ、多分どつかでそう
 なっちゃったんでしょうね。(笑い) でしょう、それ
 してもよかつながる携帯でしょ。auです。今度お
 会いたした時、カタログ見せますよ。ただもしかし
 ら(周囲見ながら) 皆さんに二度とお会いできな
 いかもしれませんか・

暗転。